

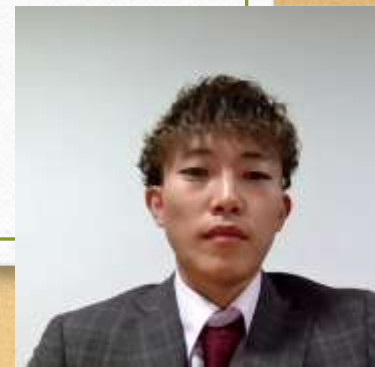
児童入所施設の取り組み

保育士 浜口 綾太



自己紹介

- 新卒で入職
- 現在5年目
- 兵庫県のSV事業と二年目に出会う
- 事例対象の児童と関わって二年くらい
- 野球と料理が好きな27歳です



支援を行うにあたって

- ベテランだからできる、たくさんの利用者を見てきたからできる

- 専門的な知識・しっかりとしたアセスメント

- 熱意

この二つがあれば
歴は関係ない



発表にあたって

※この資料は、
保護者の了承をいただき発表させていただきます
また、陽気会研究倫理委員会の承認も得ています

(承認番号:2412-0)



Aさん

17歳 高校2年生

自閉症、重度の知的障害、多動

療育手帳A判定



生育歴等

- 1歳半 発語なし
- 2歳 療育手帳取得
- 支援学校の小学部6年の終わり

父の出張⇒放課後等デイサービスの女性支援員への他害行為

- 中学部二年の夏

母への他害行為や失便が増える(紙パンツ使用)



発語

- 一歳半で「電車」言葉の消失
- 二歳でカーキャリー
- 3歳で「おかあさん」等何語かは話す
- 小学校低学年から要求の言葉が増える そこからは発語が増えず
- 慣れないところだと言葉を発さなかった



入所の経緯

- 生活環境の変化（父の長期出張）
⇒ 自傷行為や物損行為が頻発
- 母への暴力
- 家庭での生活が難しくなり、
ショートステイ利用後、中学3年の春に入所



入所後から強度行動障害のSVを受けるまで

- 入所後から少しずつ様子に変化が見られるようになる
⇒ 弄便行為や他害行為が頻繁に
- 配慮として部屋の中の刺激を少なくしようとしたことが裏目に出る
- 兵庫県強度行動障害SV養成事業の事例検討に参加



強度行動障害のSVを受ける前（本格的な支援前） の本人の様子

- 不適切な行動 70回

他害行為、椅子を投げる、大声を出す、自傷行為、壁や床を叩く、弄便行為

- 弄便行為 27回（帰宅時以外の20日間で）



表れている行動を冰山モデルで考える

目に見える部分
(行動上の問題)

弄便 物壊し
自傷 他害

特性

想像することの苦手さ
特有のコミュニケーション
人との関わり方が分からない
感覚の違い

環境

見通しが持てない
分かりにくさ、複雑さ
人による言葉や対応の違い
過剰な干渉、介入

目に見えない部分
(背景にある問題)

必要な支援、工夫



本児が困っていること(支援が必要な部分)

- 見通しが持てない＝予期不安
- 一つの場所に複数の活動
- コミュニケーション方法の違い



支援を始めるにあたって

- 三つ組

コミュニケーション、想像力、対人関係

- 支援の二本柱

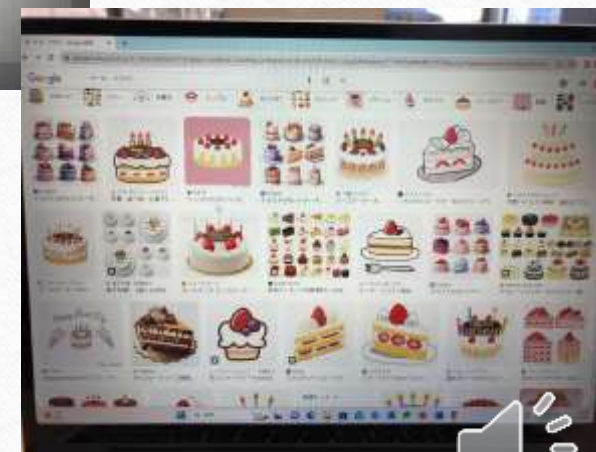
コミュニケーション（理解と発信）

構造化（時間と空間）



視覚支援を始めるにあたって

- 実物、写真、イラスト、文字の4つの中でアセスメント
- 候補をいくつか作り、その中で本児が理解しているもの



支援内容



①コミュニケーション	②時間の構造化	③空間の構造化
ボード作成	ボード作成	本児の好きなものを貼る
チャイムの設置	終わりを示す	部屋を仕切る
受け手が受け取る	カレンダー	排泄場所を一つに
センテンスボード作成	短い時間の待ち方	トイレはいつでも行ける場所



結果

- 弄便
- トイレの失敗
- 物壊し
- 壁や床を叩く
- 他害行為
- 自傷行為

まれ
数回

ゼロ



医療との連携

- 薬に頼らなくてもしっかりと支援を行うことで、安心して生活ができるようになったため、減薬する

9種類→3種類



具体的な支援

①コミュニケーション

- コミュニケーションボードを作成
- 定着するまで支援員がシャドーで補助する
- カードを出した際にすぐに支援員や保護者が気づいてあげる
- コミュニケーションボードにチャイムを付ける
- 要求の際にカードを受け取ることで、視覚的に会話のキャッチボールができるようにする



センテンスボード

- 初めて関わる人には伝わらないかもしれない
- どこでも誰とでもコミュニケーションが出来るように
- 二語文以上の要求が出来るように改良



現在のコミュニケーション

- コミュニケーションボードはどこに行く時も持っている
- 要求をする際はいつもカードを使用
- 人との関わりの変化
- 笑顔が多く見られるようになった
- カードで要求することで

音と意味がマッチし発語が増えた



学校との連携

- 学校では言葉での要求
- 支援学校の先生に相談

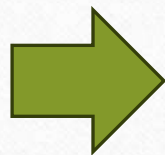
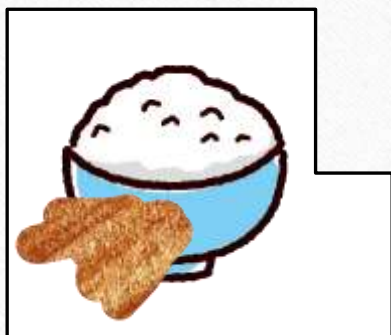
⇒学校にもコミュニケーションボードを持っていくこと
になりました

支援学校の先生方の協力にはとても感謝しています



常に使いやすいものを

- サイズの変更
- いつも綺麗なカード



具体的な支援

②時間の構造化（スケジュール）

- スケジュールボードの設置
- 終わりの示し方
- 定着するまで支援員と一緒に練習
- サイズ調整



見通しを持つ難しさ

- 起床時に支援員とスケジュールを確認しながら組む
- 帰宅前日や当日に待てず自傷や大声を出して泣く



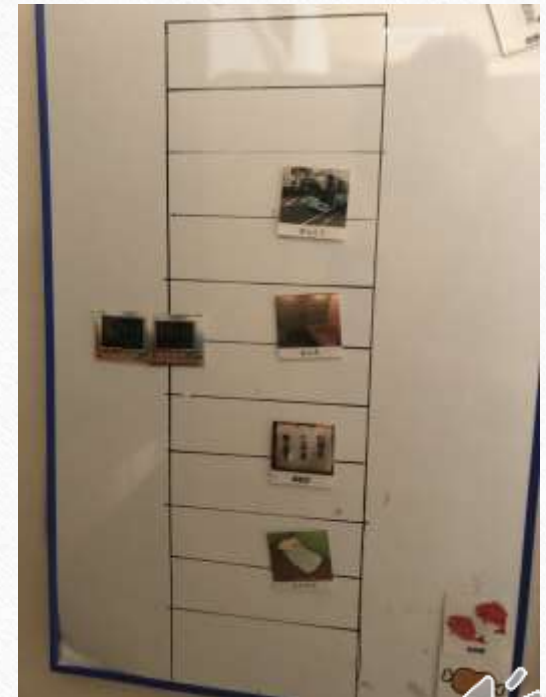
帰宅や楽しみなことへの伝え方

- カレンダーを設置
- スケジュールボードに
日付と名前
- マグネットでその日を示す



本来の使い方から離れる

- 毎朝スケジュールを支援員と確認していたが
日に日にスケジュールが崩れていく
- 何が原因なのか
時計の明るさ？ 枠が曖昧？ 左右の隙間って？



より分かりやすく

- 自由に形を作れるプラダンを使用
- 本人の顔写真を付ける
- 意味のない余白をなくす
- カード一枚ずつに枠を作る



待つとは

- タイムタイマーを使って
終わりを示す
- 日常的にタイムタイマー
を使用



祝日や長期休暇の示し方

- 土日以外の学校に行かない時に混乱する様子がある
- 学校がない日を赤にして提示する
- 連休や夏休みの際は、その赤を見て学校があるのかどうかを確認していた



外出の際

- 職員が用意
(スケジュールボード、コミュニケーション等)



- 本児が自分で用意するように



自助具の存在


- 本児の行動からわかること
- 日常生活の変化
- 人との関わり



- 支援員のモチベーションアップ



引っ越し

- 環境が変わることに対する
支援員の不安
 - 突然の部屋替え
 - 初めて保護者以外の人と寝る
- 
- 予告することで問題なく引っ越しができた



統一した空間の変更

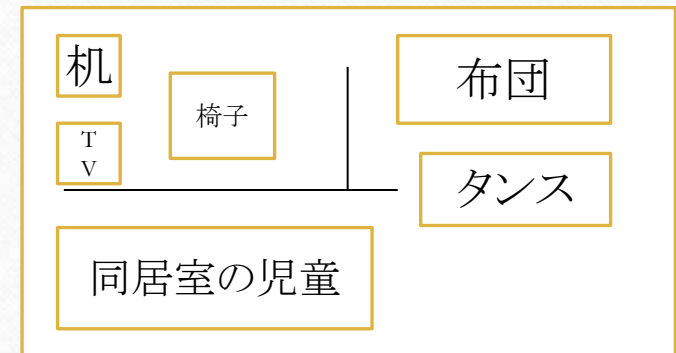
- 予告するのはもちろん
- 変更はすべてでなくても本児と一緒に行う
- 実際に本児と変更し、その部屋を一緒に見て、空間の用途を伝える



具体的な支援

③空間の構造化

- 本人の写真や好きなものの写真を貼る
- 1つの場所に1つの活動
- パーテーションで仕切る
- 余暇の充実

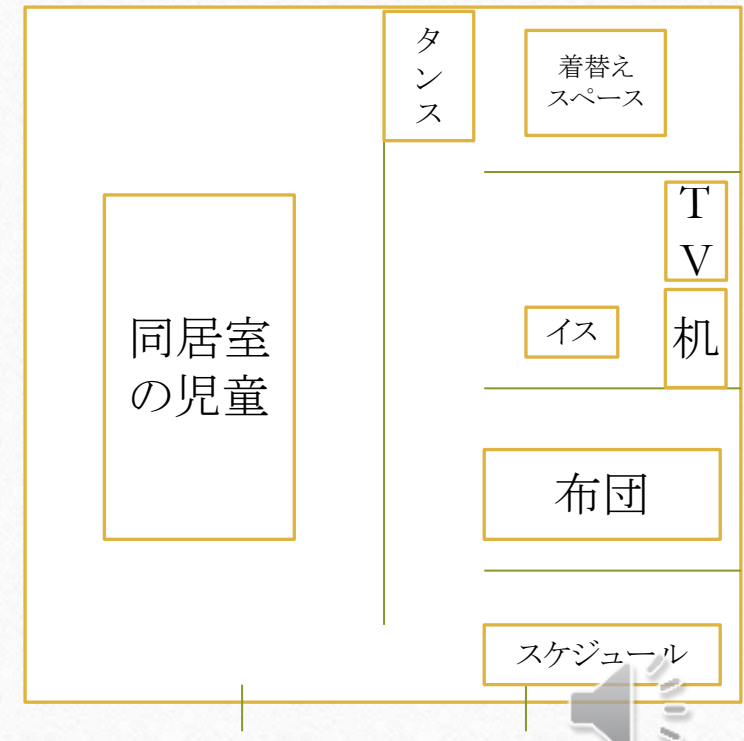


スケジュール



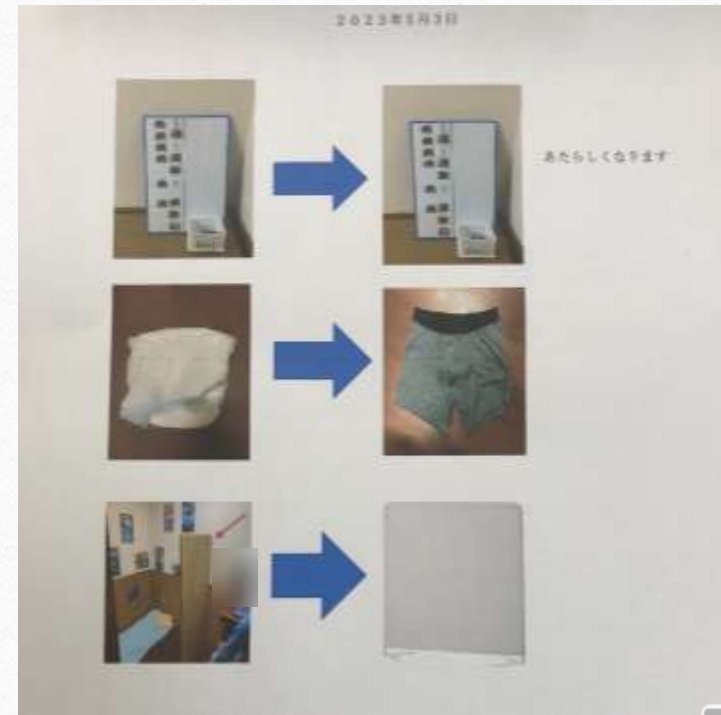
空間の再構造化

- より1対1となるように
- スケジュールを確認するスペースを作る（トランジットエリア）



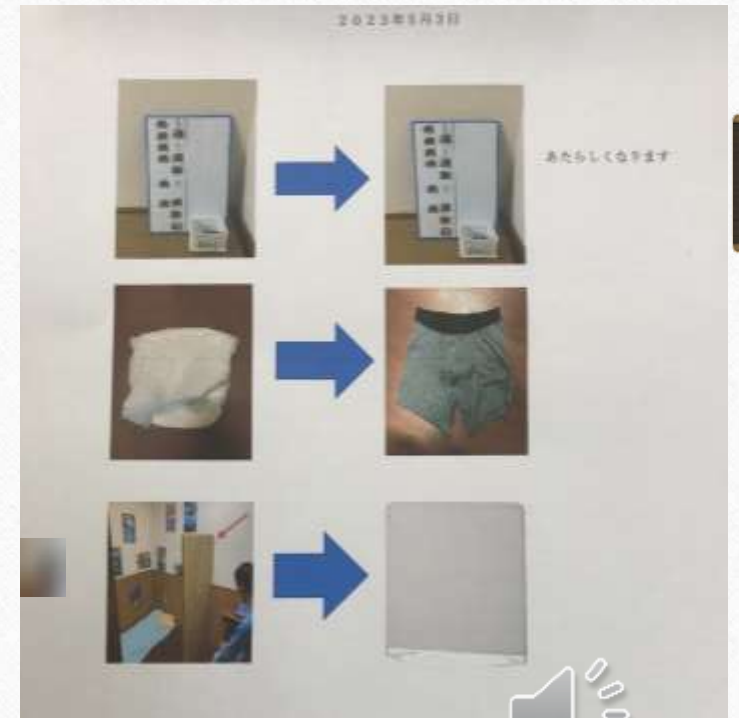
トイレ

- 排泄する場所を一つに
- 紙パンツから布パンツに変更
- ご家族に買っていただく



トイレ

- 開始一日目から排尿の失敗はなし
- 便を支援員と一緒にトイレに流す



朝のルーティンからヒント

- スケジュールボードにトイレを入れる
- 朝のルーティンの変更



朝晩の弄便行為

- 近くに職員がいるかいらないか
- 定時誘導だと職員としかトイレに行けないと思っているのでは
- トイレに行くときに使うカードを作成



起床時のトイレの失敗

- 夜間にトイレ起こしの時間を設ける
- いつでもトイレに行けることを伝える
- 朝まで眠れている



トイレの自立

- トイレには支援員が付き添い、拭き取りを行っていました
- 自立に向けて、視覚的に拭き取りの方法を提示し練習を行いました
- 現在では、トイレは一人で行っています



お風呂の自立

- 以前までは完全介助
- 手順書を見て、順番に行く
- これと決まった洗い方はないので
しやすいように並び替える



外出(神戸、三宮)

- 外出用のスケジュールボードを作成し、それを見ながら外出しました
- 途中に予定変更がありました、カードを移動することで落ち着いて楽しく過ごすことができました



外出

- 月に一回外食に行く
- 行く場所と食べるものを事前に決める
- 場所とメニューの写真を印刷し、それをもっていく



自己選択

- おやつは、本児がスーパーに行き、好きなものを買っています
- その日に食べたいおやつも本児に選んでもらって食べています



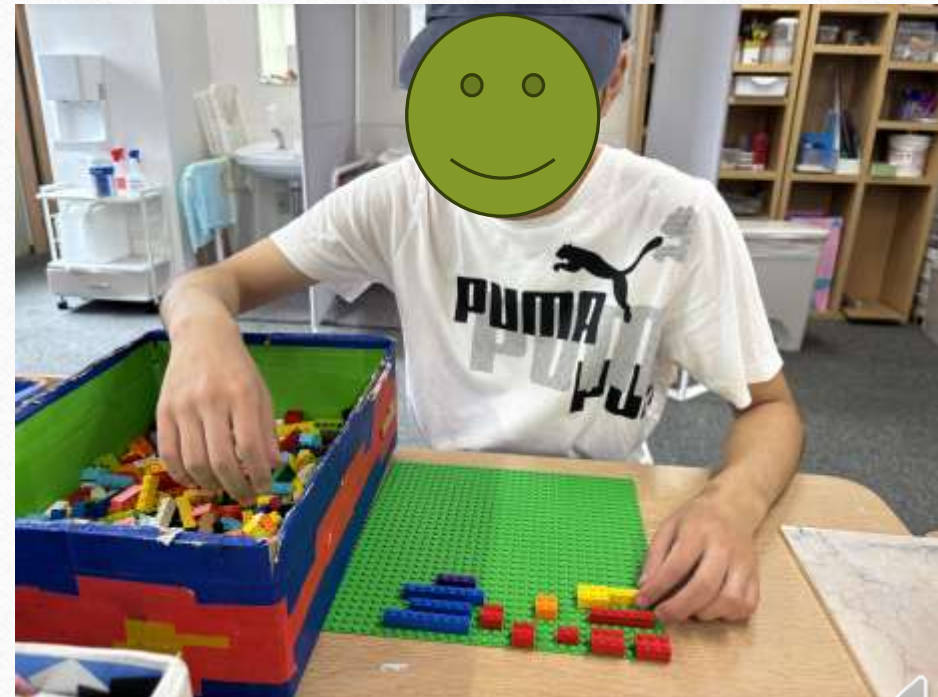
自分で買う

- 毎日食べるおやつ
- 支援員が買ったおやつと自分で買ったおやつの違い
- 自分で選んで買う重要性
- 物損行為には同じような理由が隠れているかも・・・



遊びの模索

- 現在、本児が遊ぶものがテレビ、タブレット、絵本です
- もっと増やして遊びの種類を増やしていきたいです



遊びの選択

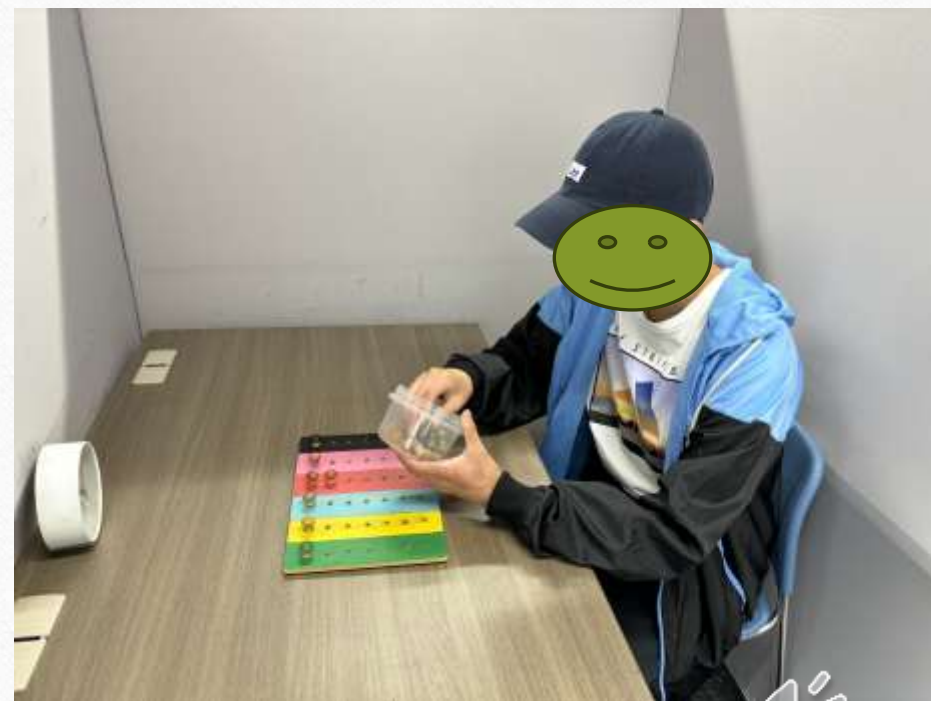
- 複数名で行う活動の選択
- 一人ずつが活動と支援員と参加利用者を見てカードを貼っている



※個人情報保護のため図になっています

生活の中から見えてくるもの

- 再アセスメント
- 活動をしているときに今後の支援のヒントはないか
- 児童期は成長が著しい



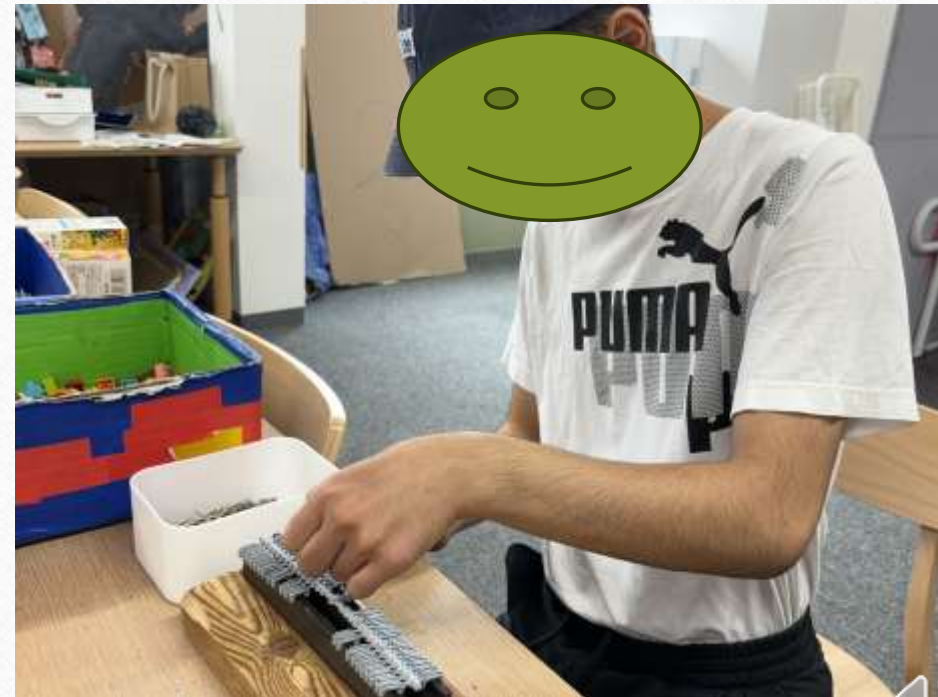
生活の中から見えてくるもの

- 再構造化
- 生活空間や作業空間の配慮の見直し
- より分かりやすく
- より安心できる空間づくり



将来に向けて

- プレイルームやデイセンターを使用して、作業を行う
- 将来の選択肢の幅を広げるために様々な課題にも挑戦しています
- 本児の得意が仕事になればと思っています



現在の様子 コミュニケーション

- いつでも要求
- 言葉の数の増加
- 人との関わりに変化
- どこにでもコミュニケーションボードをもっていく



現在の様子

構造化(時間と空間)

- 本児にとって分かりやすい環境（場所と活動が1対1）
- スケジュールボードを使用してスムーズに活動へ移行
- 好きな予定を選んでスケジュールを組む
- トイレで排泄
- 見通しをもって生活を送れるようになった



現在までの取り組みで分かったこと アセスメントの重要性

- 利用者ひとり一人に合わせた支援を行うこと
＝アセスメントを細かく
- 道具を作ればよい ×
- 何が必要なのか、どんな材料（実物、写真、イラスト、絵）が理解しやすいのか
- 何かあればアセスメントに戻る



現在までの取り組みで分かったこと 統一した支援の大切さ

- 24時間365日同じ支援をする
- 誰が見てもわかるもの



現在までの取り組みで分かったこと 家庭の協力の大切さ

- コミュニケーションボードとスケジュールボードの使用
- 支援の理解と協力
- 本児の事を一番理解してくれている



苦勞したこと

- 支援員に対しての周知の仕方
⇒ メリットを伝える、期限を設ける
- チームビルディング



事例検討

- 月に一度の事例検討で、SVに来ていただき、コアメンバーを中心に支援を検討している
- 自分一人で支援を考えるのには限界がある
- コアメンバーにいつでも相談できる環境



引き続き取り組んでいくこと

● コミュニケーション

- 発語が増えたことで、要求も増えてきたが分からない言葉があるのでカード化して伝わらないストレスを軽減する

● 構造化

- おもちゃが増えてきているので、おもちゃ置き場の作成
- 布団を片付け方を視覚的に提示



事業所内の取り組み

- 事業所内にはAさん以外にも利用者がいる
- 全員が幸せで暮らしやすい居場所を作っていく
- 一人ひとりの生活の自助具を作成
- 見通しが持てる安心した暮らし



参考資料および引用

- 兵庫県強度行動障害SV養成事業(基礎研修)資料

- 強度行動障害を呈するASDの支援
- その1:強度行動障害の特性理解
- その2:アセスメントと構造化のアイデア
- その3:コミュニケーションの苦手を補う工夫

(堀内 桂、2023(社会福祉法人 北摂杉の子会 コンサルテーション室 室長))

